

第3学年 社会科 授業構想シート

授業者 中山 和幸

本実践の主張点	知識・技能の活用・発揮を促すカリキュラム・デザインと子どもの主体・協働・省察の姿が促されるような学習問題の設定によって、探究的な学びが充実し、様々な場面で活用できる知識・技能を身に付けさせることができるだろう。
---------	---

1. 単元名 わたしたちの生活と工場で働く人々の仕事

2. 3年C組の子ども

社会科の学習では、まちたんけんやスーパーの見学、地図づくりなど具体的な活動を楽しみながら、知識や技能を身につけていく子どもたちである。これまでの学習で、はじめは見えなかったものが見えるようになったり、わからなかったことがわかるようになったりする喜びを味わってきた。しかし、社会的な見方・考え方を働かせながら多角的に社会的事象を捉えることは難しい。

3. 何ができるようになるか

探究力	<ul style="list-style-type: none"> 工場見学などの調査活動や他者との対話を通して、社会的な見方・考え方を働かせながら、工場で働く人々の仕事や自分自身の生活との関連を考察し、まとめる力（社会を考察する力） 漬物工場の人々が直面している問題の解決に向けて、社会的な見方・考え方を働かせながら、自分たちにできることを考え、発信する力（社会を構想する力）
省察性	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方・考え方を働かせ、学習を見通したり、ふり返ったりする中で、自他の問題解決の妥当性を吟味し、修正・改善する力（自他の問題解決をモニタリングし、修正・改善する力）

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

社会的な見方・考え方を働かせながら、工場の人々の仕事や自分自身の生活との関連について、観察・調査するなど、具体的に調べることをとおして、漬物づくりが自分たちの生活と関わりをもって行われていることがわかる。また、「日本人の漬物離れ問題」の解決に向けて、自分たちにできることを考え、発信することをとおして、実社会の問題解決に参画する態度を養うことができる。

② 教材の価値

和歌山県の漬物の生産量は、全国で第1位である。しかし、漬物を好んで食べる子どもは少なく、子どもにとって身近ではない。和歌山市では、江戸時代から紀ノ川流域の砂地を生かした「紀州白大根」が栽培され、保存食として大根の沢庵（紀ノ川漬け）がつくられてきた。漬物工場「K」においても、工場で働く人々の工夫や努力で伝統を守りつつ、現代社会のニーズに応えながらこの紀ノ川漬けがつくられている。これらの点から、子どもたちが時間・空間・関係といった社会的な見方を働かせながら、身近でなかったものを身近にとらえられるようになる可能性がある教材である。

③学年間・教科間のつながり

道徳「にんじんのかざり切り」の学習で学んだ「伝統を守り、受け継ぐことの価値」、特別活動「郷土の料理について知ろう」で学んだ、伝統ある紀ノ川漬けについての知識や漬物づくりの体験が本単元の問題解決に知識を「補完」するかたちで活用される。また、本単元の学び（内容知・方法知・体験知）が国語やCHANGEの学習の探究のプロセスにおいても活用され、各々のプロセスが充実する。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

くらべる
 つなげる
 まとめる
 広げる
 予想する
 見方を変える

② 学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全 15 時間） 本時 10/15 一次 漬物づくりについて話し合おう。 ・自身の漬物づくりの体験や県内の漬物の生産量や消費量を知ることから思いや願い、疑問をもつ。① ・思いや願いの実現、疑問の解決につながる学習問題をつくり、学習計画を立てる。② 二次 漬物づくりについて調査しよう。 ・漬物づくりについて予想する。③ ・工場見学を行い、漬物づくりについて調査する。④⑤ ・気づきや疑問を交流し、漬物づくりについて考察する中で、「漬物離れの問題」に出合う。⑥⑦⑧ 三次 漬物離れの解決策を考え、発信しよう。 ・漬物離れ対策を考え、まとめる。⑨⑩⑪（本時：⑩） ・漬物工場Kに発信する。⑫ ・対策を練り直し、再び漬物工場Kに発信する。⑬⑭ ・単元のふり返りをする。⑮	単元における授業づくりのしかけ 探究力を育む ・工場見学，工場内マップづくり，インタビューなどの具体的な活動を充実させ，学習を楽しみながら，事象を考察する時間を確保する。 ・工場内マップづくりや自分たちの考えの発信を行い，学びを総合することや仲間と協働することを必然にする。 ・板書や学習掲示において学んだ知識を可視化し，知識の活用を促す。 省察性を育む ・学習計画を立てる時間を設定し，学習を見通すことができるようにする。 ・問題解決の妥当性を学習問題や思いや願いに沿って吟味できるようにする。 ・学習をふり返る時間を設定し，学習をふり返ることができるようにする。
--	---

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・観察・調査活動や各種の資料から情報を収集し、漬物工場の努力や工夫と市民の生活のつながりを理解できている。	・時間・空間・関係的な視点で漬物工場の努力や工夫と市民の生活について比較・関連・総合し、説明できる。	・すすんで、調査・観察したり、学んだことをまとめ、発信したりしようとしている。

社会科学習指導本時案

授業者 中山 和幸

日時：令和元年11月3日（日）第2校時（10：10～10：55）

対象：第3学年C組 29人

場所：3年C組教室

本時の主張点	子どもにとってオーセンティックなパフォーマンス課題を設定し、「考えの可視化」、「吟味」、「ふり返り」の3セクションで課題解決ができるようにすることで、知識を活用・発揮しながら考えを再構成する探究的な学びが実現できる。
--------	--

1. 本時の構想と学習課題について

前時までに、工場見学や工場内マップづくりを通して、漬物工場の人々の工夫や努力点について考察し、漬物の生産が消費者のニーズに沿って行われていることを実感してきた子どもたちが、「日本人の漬物離れ」を問題と捉え、その問題の解決策を吟味する時間が本時である。前々時に子どもの問いをもとに設定した学習問題である「どうすれば、日本人の漬物離れを止められるだろうか」は、漬物づくりの考察を繰り返し、漬物や漬物づくりに対して、愛着が湧いてこそその問題である。本時においては、子どもたちの「何とか日本人の漬物離れを食い止めたい」という思いや願いが学びの原動力となるだろう。子どもたちの問題解決としては、自分たちもそうであったように、「漬物の魅力や漬物工場の人々の工夫を知ってもらえるようにすることが問題の解決につながっていく」という考えに収束していくことを予想している。

2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

これまでの学び（特に漬物工場の人々の工夫や努力点）を生かしながら、仲間と互いに意見や考えを交流し合い、協働する中で、日本人の漬物離れを食い止める方法を見出していくことが探究的な学びであると考え。また、互いの考えを交流し合う中で考えの違いが明らかになる場面で省察性が働くと予想する。違いに気づくことで、再度自分の考えを見つめ、より多角的に解の妥当性を吟味する姿を引き出したい。吟味によって、自らの考えや漬物づくりと自分たちの生活のつながりに対する見方・考え方を再構成することが、子どもたちの探究の質を高めることにつながることを期待する。

3. 本時で活用・発揮したいこれまでの学び

子どもたちは、特別活動において、「漬物づくりの歴史や漬物の魅力」を、道徳において、「伝統を守り、受け継ぐことの価値」について学んできている。また、本単元においては、漬物工場の人々が伝統を守りつつ、消費者のニーズにあった漬物づくりを進めていることを学んでいる。それらの知識を活用・発揮しながら、一人ひとりの見方・考え方に基づいた「漬物離れを止める方法」を説明し合い、考えを再構成しながら、学級の仲間と協働して納得解をつくっていく姿を期待している。

4. 本時の目標

- ・漬物や漬物づくりに対する個々の見方やこれまでの学びを活用・発揮したりしながら、漬物離れを止める方法を多角的に考えることができる。(思・判・表)

5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 本時の学びを見通す。(問題の把握, 解決の見通し)</p> <p>2. 本時の学習問題について確認し, 各々の考えを表出する。</p> <div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center; border-radius: 10px;"> 考えの可視化 </div> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-top: 5px;"> 学習問題: どうすれば, 日本人の漬物離れを止めることができるだろうか。 </div> <p>3. 表出した考えを全体で吟味し, 再構成する。</p> <div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center; border-radius: 10px;"> 吟味 </div> <p>予想される子どもの反応</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新商品を開発する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おいしい」と人気になる商品をつくるといいと思うよ。 ⇒漬物工場の人ができること ・漬物の魅力や工場の人工夫や努力をPRする ・漬物のおいしさを伝えるといいよ。(味) ・漬物は「保存できる」とか「暑い時の塩分補給ができる」とか、漬物のいいところを伝えるといいよ。 ・和歌山では昔から漬物づくりがさかんにされてきたことを伝えるといいと思うよ。 ・工場の人工夫や努力していることを知ってもらいたいんじゃないかな。 <p style="text-align: right;">⇒自分たちにできること</p> </div>	<p>留意点・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに本時のゴールを確認し, 見通しをもたせる。 ・各々の考えや意見を表出できるようにする。 ・一面的な見方に偏る場合は, 新しい立場からの考えを教師が提示し, 多角的に問題解決について見直すことができるように促す。 ・表出された問題の解決方法がわかるよう, 構造的に板書にまとめることで, 子どもたちの思考の整理を助ける。 ・学びを関連付け, 総合し, それらを可視化するために, 考えの要点を明らかにしながらチャートにまとめていく。 <p style="text-align: center;">【思考の可視化の一例】</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>思 漬物や漬物づくりに対する個々の見方やこれまでの学びを活用・発揮したりしながら, 漬物離れを食い止める方法を多角的に考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間があれば, 次時への見通しを持たせるために, 次の時間は「どんなことをするといいかかな?」と問う。
<p>4. 学びを振り返り, 次時の活動を見通す。</p> <div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; text-align: center; border-radius: 10px;"> 振り返り </div> <ul style="list-style-type: none"> ○漬物のよさを伝えていくといいと思うよ。 ○漬物をつくっている人の工夫や努力を伝えていきたいな。 ○でも, だれに, どうやって伝えようかな? 	

社会科学習指導本時案【修正版】

授業者 中山 和幸

日時：令和元年11月3日（日）第2校時（10：10～10：55）

対象：第3学年C組 29人

場所：3年C組教室

本時の主張点	子どもにとってオーセンティックなパフォーマンス課題を設定し、「考えの可視化」、「吟味」、「ふり返り」の3セクションで課題解決ができるようにすることで、知識を活用・発揮しながら考えを再構成する探究的な学びが実現できる。
--------	--

1. 本時の構想と学習課題について

前時までに、工場見学を通して、漬物工場の人々の工夫や努力点について考察し、漬物の生産が消費者のニーズに沿って行われていることを実感してきた子どもたちが、「日本人の漬物離れ」を問題と捉え、その問題の解決策を吟味する時間が本時である。前々時に子どもの問いをもとに設定した学習問題である「どうすれば、**附属っ子たち**の漬物離れを止められるだろうか」は、漬物づくりの考察を繰り返し、漬物や漬物づくりに対して、愛着が湧いてこそその問題である。本時においては、子どもたちの「何とか**附属っ子たち**の漬物離れを止めたい」という想いや願いが学びの原動力となるだろう。子どもたちの問題解決としては、自分たちもそうであったように、「**漬物の魅力や漬物工場の人々の工夫を知ってもらえるようにすることや伝統を守ることの大切さを伝えていくこと、漬物アレンジメニューを考え、学校給食のメニューにすることが問題の解決につながっていく**」という考えに収束していくことを予想している。

2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

これまでの学び（特に漬物工場の人々の工夫や努力点）を生かしながら、仲間と互いに意見や考えを交流し合い、協働する中で、附属っ子たちの漬物離れを止める方法を見出していくことが探究的な学びであると考え。また、互いの考えを交流し合う中で考えの違いが明らかになる場面で省察性が働くと予想する。違いに気づくことで、再度自分の考えを見つめ、より多角的に解の妥当性を吟味する姿を引き出したい。吟味によって、自らの考えや漬物づくりと自分たちの生活のつながりに対する見方・考え方を再構成することが、子どもたちの探究の質を高めることにつながることを期待する。

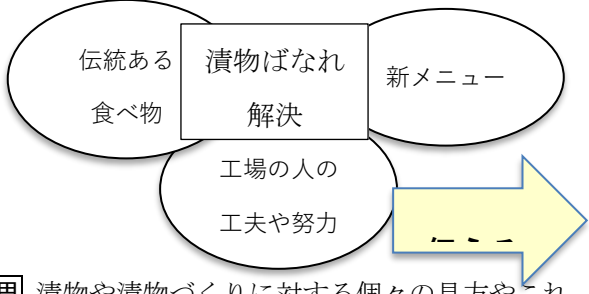
3. 本時で活用・発揮したいこれまでの学び

子どもたちは、特別活動において、「漬物づくりの歴史や漬物の魅力」を、道徳において、「伝統を守り、受け継ぐことの価値」について学んできている。また、本単元においては、漬物工場の人々が伝統を守りつつ、消費者のニーズにあった漬物づくりを進めていることを学んでいる。それらの知識を活用・発揮しながら、一人ひとりの見方・考え方に基づいた「漬物離れを止める方法」を説明し合い、考えを再構成しながら、学級の仲間と協働して納得解をつくっていく姿を期待している。

4. 本時の目標

- ・漬物や漬物づくりに対する個々の見方やこれまでの学びを活用・発揮したりしながら、漬物離れを止める方法を多角的に考えることができる。(思・判・表)

5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 本時の学びを見通す。(問題の把握, 解決の見通し)</p> <p>2. 本時の学習問題について確認し, 各々の考えを表出する。</p> <p style="text-align: center;">考えの可視化</p> <p>学習問題: どうすれば, 日本人の漬物離れを止めることができるだろうか。</p> <p>3. 表出した考えを全体で吟味し, 再構成する。</p> <p>予想される子どもの反応</p> <p style="text-align: center;">吟味</p> <p>新商品を開発する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おいしい」と人気になるメニューをつくるというと思うよ。 <p>漬物の魅力や工場の人工夫や努力をPRする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漬物のおいしさを伝えるといいよ。(味) ・漬物は「保存できる」とか「暑い時の塩分補給ができる」とか、漬物のいいところを伝えるといいよ。 ・和歌山では昔から漬物づくりがさかんにされてきたことを伝えるといいと思うよ。 ・工場の人工夫や努力していることを知ってもらおうといいんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに本時のゴールを確認し, 見通しをもたせる。 ・座席表(個々の考え入り)を配布し, 各々の考えや意見を。 ・一面的な見方に偏る場合は, 新しい立場からの考えに気づかせるような問いかけを教師が行い, 多角的に問題解決について見直すことができるように促す。 ・表出された問題の解決方法がわかるよう, 構造的に板書にまとめることで, 子どもたちの思考の整理を助ける。 ・学びを関連付け, 総合し, それらを可視化するために, 考えの要点を明らかにしながらチャートにまとめていく。 <p style="text-align: center;">【思考の可視化の一例】</p> 
<p>4. 学びを振り返り, 次時の活動を見通す。</p> <p style="text-align: center;">振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漬物のよさを伝えていくといいと思うよ。 ○漬物をつくっている人の工夫や努力を伝えていきたいな。 ○漬けものばなれを止めることは, 伝統を守ることにつながるんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間があれば, 次時への見通しを持たせるために, 次の時間は「どんなことをするといいかな?」と問う。